

と、何という向こう見ずなど思うのですけれども、その社長はじつと最後まで聞いてくれて、聞き終わったら、お手伝いしましょう、支援しましょうと、その場で約束してくれました。それがなかったら、事業を立ち上げることはできなかった。私たちは主婦の集まりだったので、その方は、資金面で協力してくれただけでなく、その後も経営戦略会議を持つてくれて、今に至るまでずっと支えてくれました。自分たちは何もなければ、相談できる人はいる。周りにそういう人間、人脈を持つということは、すごく強いことだと思っています。

司会 今のお二人の話聞いてどうですか。

岩岡さん うちの理事長は、今はやりの「イクボス」です。会社や上司が育児に理解があり、キャリア面でもチャンスくれます。例えば海外の研修に行く機会を私に譲ってくれ、そのおかげで、仕事を任せてもらったりしています。こういうナンバー1が増える、必ずしも強い信念や課題意識を持つていてという人でなくても、誰かの応援をしながら、活躍する機会がもつと増えるのではないかと思います。女性の活躍の場として、私のように、二番手、三番手として活躍する余地がもつとあるといいなと思います。

受賞したことがもたらした変化

司会 女性のチャレンジ賞を受賞し、ご自身あるいは団体にどのような変化があったのか。また、地域にメリッ トがあったのか、この辺りもお聞かせ

にしようということで、町と協働を始めました。受賞がこのきっかけになったと思います。

司会 社会的に認知されることによつて活動が認められ発展していくケースと、永井さんたちのように、自分たちを見直すきっかけになっていくケースの両方がありますね。惣万さんはいかがですか。

惣万さん 富山型デイサービスと言ったら、富山県下の人ほとんど知っている。これは、賞を取ったからというだけではなく、理念が皆に普及して、富山を共生社会にしようと思われ、富山を共生社会にしようと思われ、民間も行政の力が必要です。何やかん



今村 久美さん



永井 寛子さん

ください。

今村さん 先ほど申し上げたとおり、先輩たちが開いてくれた道を私たちが歩んでいることを私自身が学べたというのが一番大きかったです。受賞以降、内閣府や文部科学省の委員に声がかかるようになったので、これに選ばれたのがお墨つきになっているのかもしれない。私もあります。社会が認めてくれる、お墨つきをいただけるというのは、「変人」だと思われているはずのことを、世の中が認めていることなのだとうれしかったです。周りが喜びました。

岩岡さん 私のところもNPOなのに美容という、NPOの中でも変わった

や言っても一緒にやっていたいかなければならないし、行政の方たちも、民間に力を求めてくるのは、発想力や柔軟性が自分たちに足りないかと分かっているからでしょう。民間と行政が一緒にやることによつて、1足す1が2ではなくて、3になったり、5になったりする。これが社会を変えていくのではないかなと思います。継続は力なりで、一発花火ではためなので、やるからには、10年、20年単位でやっていかなければならないと思います。

多様な形で「活躍」できる社会を

司会 今村さんと岩岡さんは20代で

人たちがなんです。美容業界でも、福祉や介護という、変わっている人たちだと思われて、どちらにせよ居場所がない感じで、地味な活動をずっとやってきました。こういう賞をいただけることで、団体としての認知が上がるのはとても意味のあることで、私自身よりも、団体としてチャンスを得ただけです。個人的には、娘も単純に喜びます。私は学歴もないですが、そういう人でも社会が認めてくれる、チャンスがもらえるという意味でいいと思います。

永井さん 私たちは、環境大臣賞や山梨県の県政功績者表彰もいただきました。新聞にも載りましたが、地元

活動を始めたわけですが、次に続く若い人たちについて何か思うことはありますか。

今村さん 私が22歳で起業した13年前よりも、今のほうが、社会的な課題を解決することをビジネス的に解決していこうとする分野に、かなり多くの若い人たちが入ってきているという実感があります。女性、男性にかかわらずなのですけれども、女性もか



なり多いと思っていて、せっかく一回の人生だから、自分が問題だと思うことを解決していくことで自分の生業を立てていこうと選ぶ人たちが増えているのはうれしいです。

岩岡さん 今村さんのように、リーダーとして自分がやりたいと思うことを始めた人たちに憧れて、私たちががんばろうという若い世代もいると思うのですけれども、そういう人は少ないと思います。やはり、すごくハードルが高い。社会起業家というほどでなくても、仕事と家庭を両立しながら社会のために何かやるというような、多様なキャリアパスのモデルがもう少しあるといいと思います。今はそういうところにフォーカスが当たっていないと感じています。リーダーの右腕としてだったらがんばれるみたいな女性に、チャンスを与える支援策があると思えます。

今村さん 私も仕事を一人でしているわけではないので、メディア等の取材も、代表でなくてもいいものは、できるだけ別のスタッフに代わるようにしています。起業する人というのは、自分がやりたくて始めているのですが、岩岡さんのように、その人たちの思いを形にしていくところに優秀な人が入ることの方が大切だと思います。そういう人にもっと光が当たるようなものがあるといいですね。

司会 今日は、女性のチャレンジ賞を受賞された方たちにお集まりいただきまして、多岐にわたるお話を伺いました。楽しいお話をありがとうございました。

